

東由利町報

No. 285 昭和53年12月1日発行 昭和42年7月21日第3種郵便物認可 毎月1・15日発行



No. 285

12
/ 1

《宿小新校舎が完成》

老朽化著るしく危険校舎に指定され、今春から2カ年計画で全面改築が進められてきました宿小新築工事の今年度分が完成。11月26日には児童のほか、父兄も手伝って、旧校舎からの引越しを無事終えました。

完成したのは、延床面積1,667㎡、普通教室6、特別教室5、それに職員室などのある、町内の小学校では初の鉄筋コンクリート二階建て校舎。

尚、体育館は来年建築されます。

町功勞者に長谷山・梅津の両氏

文化の日に晴れの表彰式



昭和二十二年四月に玉米村議會議員に就任されて以来、昭和五十一年七月までの二十一年間、議會議員の職にあり、この間、教育民生委員長を歴任するなど、町政の発展に努められたほか、昭和三十三年十月から三十七年九月までは東由利村教育委員、

東由利町黒瀨字石田八十三の二（地下の沢） 明治三十七年四月八日生（七十四歳）

長谷山千代蔵氏

町政・町農業の発展に尽力

昭和五十三年年度の町功勞者表彰式は、去る十一月三日の文化の日に、前表彰者、町自治功勞者、議會議員、各種団体長など六十名余りが出席し、午前十一時から町開発センター（有鄰館）で行われました。

今回表彰された方は、戦後間もない昭和二十二年に玉米村議會議員に就任以来、旧村合併後、町制施行後と、通算二十一年の長い間議會議員に在任する一方、玉米村教育委員、同教育長、農

業委員、農業協同組合理事の職にもあり、町政発展のために活躍してこられました長谷山千代蔵氏と、村長の要職にある父を持ち、自らも教職にあった故梅津氏のもとに他村から嫁ぎ、家を齎るかたわら、地域の奉任と指導に当たり、社会の連帯と融和に尽くしてこられました梅津ヤス氏です。

両氏は、町表彰条例に基づき十月二十四日に開かれた町功勞者選考委員会（小野広志委員長



東由利町宿字大琴二十四（大琴） 明治二十六年九月五日生（八十五歳）

梅津ヤス氏

社会の連帯と融和に寄与

三十四年九月から三十七年九月までは教育長として教育行政も担当、町教育振興にも尽力された。

委員七名）の選考を受け、晴れの受賞となったもので、小松町長からそれぞれ、表彰状並びに町功勞者章が贈られました。

これで町功勞表彰者総数は、昭和三十六年の第一回から数えて六十名となりました。

尚、梅津さんは、昭和四十五年度に表彰された故畠山ヨネさんに次いで女性としては二人目です。

功勞者の業績等は、次のとおりです。

また、昭和二十六年八月から三十一年四月までは玉米村農業委員、五十二年十月から現在まで東由利町農業委員、昭和二十三年九月から二十八年三月まで、三十四年四月から三十四年三月までは玉米農業協同組合理事の職にあり、町農業の発展にも尽力された。

平鹿郡川西村（現大森町）に出生。

大正二年二月、本町大琴の梅津正氏（故人）に嫁ぐ。

村長の要職にあった父栄吉氏（故人）、教職にあった夫の中でよく家庭を修め、子女の薫化に努められた。

また、地域の奉仕と指導に当たり、地区の連帯と融和を図ることに尽力された。

町長日記

- 十一月八日、立冬。日本語の季節の語感に素晴らしい。
- 国の予算編成を前にして、市町村は対応に忙しい。本町が明年度国に要望する事業は、
- 1、国道一〇七号線蔵工区、板戸工区改良（継続）
 - 2、県道法内線改良（継続）
 - 3、県道黒瀨線改良（継続）
 - 4、県道松柴線改良（継続）
 - 5、県道沼館線改良（部分）
 - 6、県道黒沢線改良（部分）
 - 7、県営圃場整備、田代地区面工事其他（継続）
 - 8、第二次農業構造改善事業（継続）
 - 9、ミニ総合パイロット、宿地区（継続）
 - 10、地域農政整備、岩館、法内（継続）
 - 11、農免道路根小屋線改良（継続）
 - 12、農免道路根井沢線改良（継続）
 - 13、林道土場沢線舗装（継続）
 - 14、林道軽井沢線舗装（継続）
 - 15、宿小学校体育館（継続）
 - 16、県代行事業金山線改良（継続）
 - 17、新農業改善事業、宿地区（新規）
 - 18、土地改良総合整備事業、岩館、法内、宮ノ前、上里（新規）
 - 19、県道仁賀保矢島館合線用地補償（新規）
 - 20、林道ぼつめき線新設（新規）
 - 21、農道須郷線新設（新規）
 - 22、牧道沢内線新設（新規）
 - 23、開拓道路深山線改良（新規）
 - 24、町道改良舗装の中で、国への直接補助要望は、湯出野線舗装、葎沢線改良。
 - 25、其他の事業は単独町費、若しくは起債。
- 以上である。53年度予算は22億であって、6千人台の町村では全県で最高である。54年度も大型の予算となり又、公共事業も本年度以上に増額される見込みである。
- 昨年度予算について知事と全県の町村長との連絡協議会。
- 治山、林道の予算、農村環境整備モデル事業指定の陳情。―農林水産省、大蔵省。
- 農村環境整備モデル事業とは、農業生産基盤の整備とともに、農村の生活環境を整備する事業のことをいい、この事業の指定を受けるにはその町村の農村総合整備計画が必要であり、それを国土庁が検討する。その農村総合整備計画のヒヤリングに、佐藤企画室長、畠山主事が出席。

高村など 三地区に簡易水道完成

安心して飲めると喜ぶ住民

生活用水にわき水や沢水を利用していた高村、黒沢、奥ヶ沢地区に、このほど簡易水道施設が完成、試験給水、水質検査等も終了し、十一月二十二日から正式給水されています。

これらの地区は、雨が降ると水が濁ったり、渇水期には水量不足となったりするなど、地区住民からは早期に簡易水道施設の要望が高かったものです。

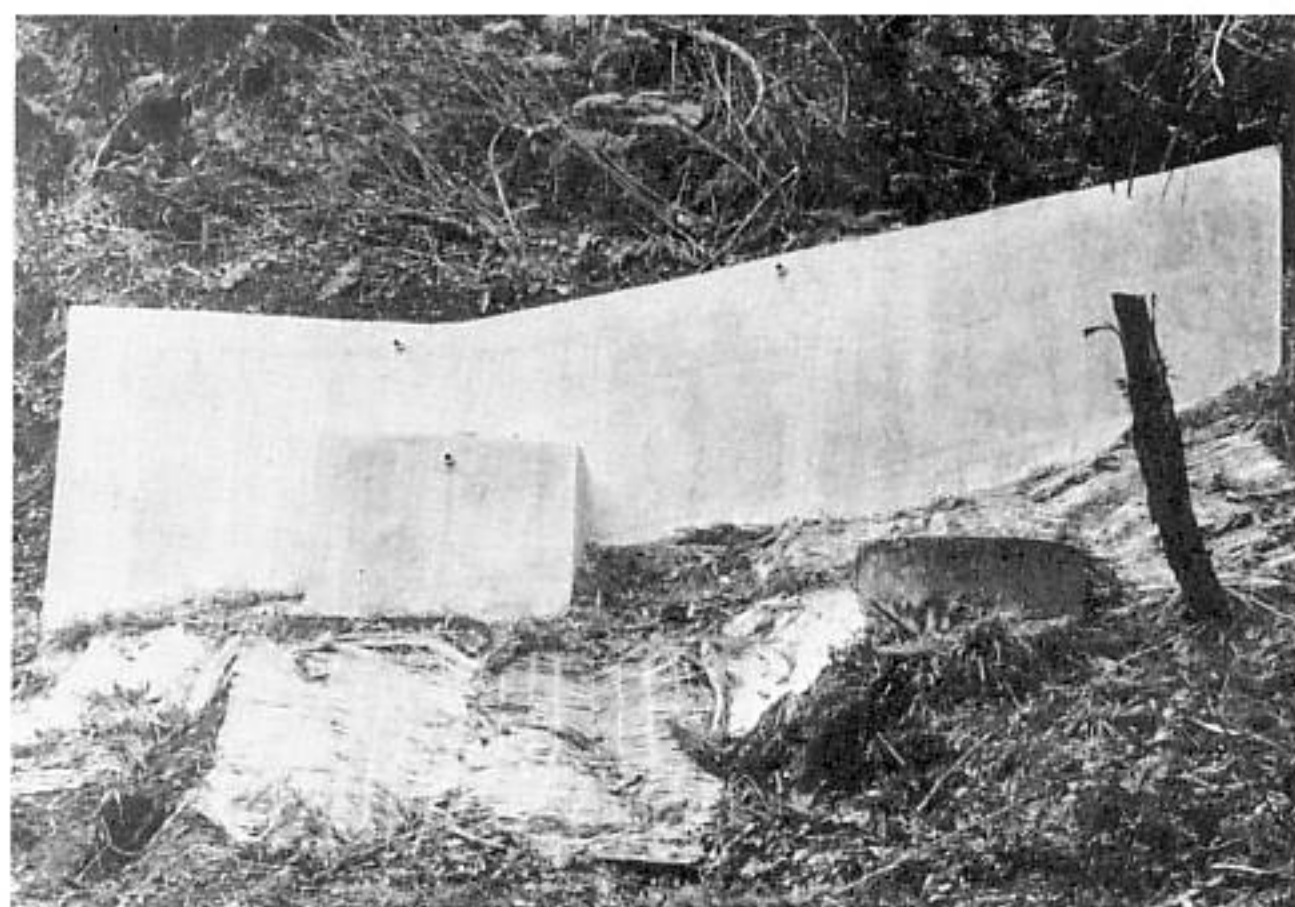
こうしたことから町では、国県合せて補助率六十パーセントの補助事業「山村地域農林漁業特別対策事業」で七月中旬から

工事を進めてきたもので、事業費は三地区で三千三十三万六千円となっています。

三地区ともわき水を取水し、パイプで配水池に送り、塩素滅菌して各家庭へ給水しているもので、通常の水使用では真夏の

渇水時でも断水することはないといわれています。

水は、私たちが生活していく上で、必要不可欠なものとされ、高村の工藤市郎平さんは「水質の点でも心配なく、安心して飲み、使えるようになった。」



▲水源地(高村)

▼配水池(高村)



▲蛇口をひねると安心して飲み、使える水がいきおいよく出る

出かせぎ者の皆さんへ 帰省・上京バスを運行 家族と楽しい正月を

と喜んでいました。
町内の簡易水道普及率は約七十割となっており、本荘保健所管内平均の九十五割に比べ著しく低く、町では今後、各地域

町では今年も、出かせぎされている方々に年末・年始の混雑した交通機関を避けてご家族と楽しい正月を過ごしていただくべく、次により東京・東田利間の年末帰省バス、年始上京バスを運行します。で、ぜひご利用ください。

の実情を考慮しながら各種制度に照らし合わせ、安心して飲める簡易水道施設に取り組みしていくことにしています。

記

◎年末帰省バス

・出発日(東京発) 十二月二十八日、二十九日

・乗車場所 東京都港区浜松町三ノ五 浜松町バスターミナル

・出発時間 午後七時(東田利町到着は翌日午前七時の予定)

◎年始上京バス

・出発日 昭和五十四年一月六日

・乗車場所及び時間は次のとおり。

舟木発 14時30分

大琴発 14時35分

蔵発 14時40分

老方発 14時45分

玉米発 15時

田代発 15時20分

黒沢発 15時30分

上野着(7日) 6時30分

※申込み期限

帰省バス 十二月十日

上京バス 十二月二十五日

※申込み先

交通事故をなくして明るい新年を

年末の交通安全運動

12月1日～12月10日

重点

- 1 安全歩行と安全運転の促進
- 2 飲酒運転の徹底追放

役場 出かせぎ相談所へ
※乗車料金
帰省バス、上京バスとも六千四百円(五十四年一月五日、六日の両日中に納付していただきます。)

なお、申込んだものは取消ししないでください。

臨時議会

夏川原農道橋工事費など

二千九百二十九万四千円を補正

東由利町議会第十回臨時会は十一月八日に招集され、次の案件について審議、全案件を原案どおりに可決しました。

- ◎ 町道の廃止について
道路法第十条第一項の規定に基づき、町道を次のとおり廃止するものとする。
 - ・路線名 沢中線
 - ・起点 田代字沢中
- ◎ 町職員の旅費に関する条例の一部を改正
バス料金の改定に伴い、町職員の旅費の一部を改正した。
- ◎ 町立宿小学校建築工事請負契約の変更契約締結について
町立宿小学校建築工事請負

- ・終点 田代字深山
- ・延長 九二〇メートル
- ・幅員 三・六メートル
- ◎ 昭和五十三年度東由利町一般会計補正予算(第六号)
 - 歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ二千九百二十九万四千円を追加し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ

蔵地区で大火防止訓練

永慶保育園児童の避難訓練も



男手の不足する冬期間に、婦人消防隊にかける期待は大きい

「それぞれの持場で生かせ、火の用心」をスローガンにした秋の全県火災予防運動を前に十一月四日、蔵地区で大火防止訓練が行われました。

この訓練は、町の防災計画に基づく訓練として気象悪条件下の家屋密集地域での出火を想定して、消防団員の消防技術の練磨や地域住民の消防体制の確立及び防火思想の啓発を目的に実施されたもので、四月について今年二回目です。

当日は、町消防団員、地元婦人消防隊、分署員、合せて三百四十名、それに、交通指導隊、東北電力東由利出張所、小型ポンプ二十三台、自動車ポンプ三台、救急車などが出動して実戦さながらの訓練を展開しました。

―風速十メートルの南東の風が吹き、異常乾燥注意報・強風蔵新田で火災が発生との通報を

れ二十一億八千八百九十九万九千円とした。

歳出補正の主な内容は、次のとおり。

- ・土地改良総合整備調査設計委託料 九百六十五万七千円
- ・須郷地区農道整備設計委託料 二百十万円
- ・ヨシヤチ地区圃場整備工事関係費 七百十三万円
- ・夏川原地区農道橋整備等農村基盤総合整備事業(ミニ総パ)関係費 九百八十九万円
- ・宿小庁用備品購入費 七百八十万円

救急車の出動による救急活動、及び、風下、風横の蔵小学校、永慶保育園の避難訓練を展開。

十時五十分、消防隊総力をあがての消火活動により第一次、第二次火災とも遂に鎮圧、約三十五分間にわたる訓練を終了しました。

寒さも一段と厳しくなり、ほとんどの家庭で暖房器具を使用しますが、今後はこれらの器具による火災発生危険が多くなります。

また、これからは降雪も加わって消火活動もむずかしくなります。

一人ひとりが、日頃から火気の取り扱いには十分注意して、赤い炎の犠牲にならないという強い決意も望まれています。

本町が県知事表彰

十五年連続の税金完納

十一月十六日、県庁・県議会大会議室で行われた昭和五十三年度県納税表彰式で本町は、優良納税市町村として岩城町など他の八市町村とともに県知事から表彰状が贈られました。

これは、本町が納税貯蓄組合の育成強化と納税成績の向上に努め、特に、昭和

五十二年度まで連続して十五年間、収納率百パーセントを達成していることが高く評価されたものです。

税は、自治体を運営していく上でもっとも基礎となるもので、その収納の良し悪しが町勢に大きく影響します。

町では、健全な財政運営と豊かな町づくりのために今後尚一層、この税に対する町民の理解と協力をお願いするものです。

一滴

「十二月のことをなぜ師走というのでしょうか？」という質問に、ほとんどの人が、「先生まで走り出すほど忙しい月だから」と答えます。

しかし、どうもこの説、あまりあてにならないらしい。昔の俳諧の本あたりに、たしかに「師家の馳せ回る月」と書いたものもありましたが、それより「年果つ」とか「し果つ」すなわち、ことが終るという意味とする説の方が強いようです。

もともと師走は、先生が走り回らなくても「ピポーピポー」と走り回るあの救急車やパトカーの音は、ふだんよりあわたたしげです。師走は交通事故、酔っ払いなどが増えるので、一一〇番は大忙し。その上、正月が近づくと、医師は走り回るところか、休業が増えるので、なおさら救急車が走らせられるハメになるようです。

昔は、師走といえば借金取りの話がつきものでしたが、今年の師走は、サラ金に泣く人がでなければいいがと気がかりな年の暮れです。

みんなそろって新年を迎えたいもの。

今年のあゆみ

- 1月4日 新春座談会2地区で実施
- 2月6日 湯出野遺跡が秋田県指定史跡に指定
12日 出かせぎ留守家族懇談会（於有鄰館）
19日 出かせぎ者短期研修・懇談会（於日本都市センター）
- 3月11日 町議会第2回定例会始まる（昭和53年度一般会計当初予算15億9千113万1千円）
- 4月15日 春季大火防止訓練老方地区で実施
26日 祝沢分校統合式（4月1日から老小と統合）
※ 老人健康相談を開始（毎月第1、3月曜日・於朋楽荘）
※ 保健推進員の委嘱替え行われる（新しく129名を委嘱）
- 5月5日 第18回町青年駅伝大会（第1位 蔵青年会A）
15日 八塩登山道調査（議会総務委員、営林署担当区、教委、町産経課）
※ 朴の木沢放牧場開牧（25頭放牧）
- 6月25日 第7回町球技大会（約4千人の町民が参加）
30日 第23回町畜産共進会（於上の台、出陳頭数86）
※ 第1回春季社会人野球大会開催（18チーム参加、優勝 役場チーム）
※ 黒淵、蔵集落センター工事着工
※ 農免農道軽井沢線改良工事始まる
- 7月7日 本荘市由利郡公民館大会（於有鄰館）
17～19日 小学校宿泊訓練を実施（於台山周辺、町内各小5年生77名が参加）
21日 訪ソ青年の船で2青年ソビエトへ（小松忠孝さん、佐藤悦子さん）
22日 平鹿地方農業視察研修（雄物川町、大雄村、大森町視察、一般参加者87名）
26日 町消防訓練大会（総合優勝第4分団）
27～29日 八塩で「少年自然教室」開設（58名の小学6年生が参加）
※ 杉森林道改良工事全線完了
※ 二次農構板戸地区ほ場整備に着手（11.3ha）
- 8月15日 町成人式（該当者181名）
19日 横渡運動場オープン
23日 町追悼式（於有鄰館）
24～25日 玉掛け技能講習会（町内69名、町外21名が受講）
26日 国道107号線改良期成同盟会総会（於有鄰館）
- 9月3日 町民運動会（約4千人の町民が参加）
6日 日中友好農業青年の翼で二氏が中国へ（鈴木孝弥さん、沼田勇雄さん）
7日 新農業構造改善計画地区に指定される（宿地区）
19日 部落長研修（山形県羽黒町へ）
22日 島根牛30頭導入
- 10月1日 監査委員に小番銚平氏選任
31日 集落農場ほう賞事業で久山営農組合に優秀賞
31日 転作集団ほう賞事業で島集団に優秀賞
- 11月3日 町功労者表彰式（長谷山千代蔵氏、梅津ヤス氏の二氏が受賞）
5～7日 生活文化祭、農協祭開催
※ 高村、黒沢、奥ヶ沢に簡易水道施設完成

昭和五十三年を

ふり返って

農家にとっては「水田利用再編対策」という厳しい米の生産調整策にあけた今年も、もうすぐ終ろうとしています。みなさんにとってはどのような一年だったのでしょうか。町では、今年もさまざまなことがありました。ほ場整備を中心とする農業生産基盤の整備をはじめ、生活環境整備、住民福祉の向上、教育の振興など、あらゆる面に力を注ぎ、住みよい町づくりに努めてきました。そこで、今年一年の主なできごとをふり返り、来る一九七九年も、さらに魅力ある、住みよい町づくりを進めたいと考えるものです。

無火災の誓いも新たに消防出初め式

一月六日

新春恒例の町消防団出初め式は、今年も一月六日に東由利中学校体育館に開催され、消防団員、婦人消防隊、東由利分署員など総勢約三百五十人のほか、

企画室を新設 行政機構一室五課に

三月一日

町課設置条例の一部改正を行い、町の総合計画の企画調整に関する事務を分掌する企画室が

新たに設置された。これで、町の行政機構は一室五課となった。

水田利用再編対策に協力要請 部落代表者会議開催

四月五日



米の過剰基調を背景に、今年から十年間、水田利用再編対策が実施されることになり、町で

は、本格的な農作業を前に部落代表者会議を開き、町独自の推進策を示すとともに、各農家の理解と協力を要請した。

農村総合整備計画 作成市町村に指定

五月九日

農村総合整備計画作成市町村に指定される。町ではこれを受けて、昭和五十四年から六十三三年までのおおむね十年間を見とおした。町の総合整備計画を作成している。計画に当たっては、町民の意見を十分に反映させるため、5月27日から6月2日まで、全世帯を対象とした「住民意向調査」を実施した。

農免農道等起工式 大台―大吹川を結ぶ

六月二十八日



農免農道根小屋、軽井沢両線及び大琴地区ミニ総バ事業の起工式が六月二十八日、関係者約百三十名が出席し、盛大に行われた。

一町で二本の農免道路が同期に施行されることはめずらしいといわれ、他市町村をうらやましがらせている。

この農免農道は、当然別々に

工事が発注、施行されている。がしかし、よくみると、その接点は国道一〇七号線をはさんで相対している。このことは即ち、工事が完成すると、大台と大吹川が一つの路線で結ばれると同じことなのだ。

また、さらによくみると、両線の延長上にはそれぞれ県道があり、それによって矢島、大内と結ばれているということである。

こうしてみるとこの二線の改良工事は重要な意味を持ち、沿線住民の生活圏の拡大や経済交流などに大きな影響を与えることは言うに及ばない。

一日も早い、「工事完成」の声が聞きたいものである。

全町のお年寄りが一堂に会し敬老会

六月二十九日

今年の敬老会は、例年より約



3ヶ月早い六月二十九日に有鄰館で行われた。

これは、毎年九月に各地区ごとに行われていたものですが、有鄰館の建設を契機に全町のお年寄りが一堂に会し、旧交を温めてもらおうと時期を早めて行ったもの。

当日は、該当者四百五十一名中三百八名が出席、婦人会員らの心のこもったもてなしで、楽しい一日を過ごした。

市町村訪問で

佐々木副知事来町

初めて現地を視察

七月五日

県民の生の声を聞き、県政に反映させることをねらいとした知事の市町村訪問。今年、佐々木副知事が阿部地方課参事ほか出先機関の所長ら八名とともに七月五日、本町を訪れた。

今回の訪問では、副知事自身が積極的に法内線や、肉用牛生産団地山崎繁殖センターなどの

現地に足を運び、その状況を自分の目で確かめてくれた。

このようなことは今までになかったことで、現地視察後の懇談会と合せ、今後の町の発展に大きく影響するものと関係者は期待している。



法内地区で地域農

政特対事業に着手

七月

町では今年度から新たに「地域農政特別対策事業」に着手した。

これは、営農志向あるいは生産の組織化などについて地元意向を集落段階から積み上げ、生産基盤の整備や担い手の育成確保、農用地等の有効利用などを総合的に推進し、新しい村づくりを進めようというもので、蔵の一部を入れた法内地区で実施されている。

整備事業は二ヶ年計画であり総事業費は約九千万円となっている。

なお、今年度は二千八百五十万円でトラクターなどの近代化施設が整備された。

第一回社会福祉を 高めるつどい開催

八月十七日



町民の幸せを求めて一をテーマに、本町では初の「社会福祉を高めるつどい」が有鄰館で開催された。

つどいには町内から二百五十人余りが参加、手をつなぐ親の会の畑山さんら六人が体験発表したのち、「自らの福祉の心を呼び起こし、社会福祉活動に積極的に参加し、町民の幸せを求めて強力にボランティア活動を推進する」という宣言を全員が採択し、一日の幕を閉じた。

ライスセンター完成

町農 業史に新たな一P

九月



農家の過剰投資を抑え、稲作の機械化一貫体系の確立を図ろうと、東由利農協が事業主体となり、第二次農業構造改善事業でライスセンターを建設。今秋から操業を開始し、町農業史に新たな一ページを書き加えた。

小松音 顕影碑建立 遺族ら出席し除幕式

十月四日



音楽家として全国的にその名を成した、本町館合出身の小松耕輔、三樹三、平五郎、清（いづれも故人）四兄弟の功績をたたえる音楽顕影碑が東由利中学校前庭に建立され、遺族九人のほか、来賓、関係者ら百六十八人が出席して盛大に除幕式が行われた。

碑は縦一丈、横二・五丈、厚さ六十センチのスウェーデン産の大理石で、碑文には「日本語は歌いやすく、美しいことばである」と刻まれている。

また、碑のそばには四兄弟の足跡を伝える、高さ二丈、幅六十センチの添碑も建てられた。

林野二十ヘクタール が葉たばこ畑に

十月



米プラス葉たばこによる「複合自立経営農家」の育成をめざし、町では今年第二次農構で、田の沢（松柴）、田代地区（石高、高下屋）にせて二十ヘク

タールの林野を「葉たばこ畑」に造成した。

耕地面積の少ない本町にあって、このように大規模な畑地造成はもろろん初めてのことであり、今後の町の農用地開発、ひいては「豊かな町づくり」のために、極めて意義深いものとなった。

今後の発展が期待される。

宿小新校舎完成 体育館は来年度

十一月



本年五月から建設を進めてきた宿小校舎が完成した。

新校舎は、国道一〇七号線を本庄方向から来、舟木を過ぎると前方高台に、クリーム色のすっきりとしたその姿を見せている。さらに充実した新しい学び舎からは、数多くの子どもたちが明日の未来に向かって大きくはばたいていくことだろう。

（一面参照）

53 年米
産

等級を下げた胴割れ米

平坦部より山間部の作柄が良

年明け早々から水田利用再編対策という大きな課題が出された今年の稲作も早や収穫の秋を過ぎ、今年当町に割り当てられた七万五千五百五十俵の政府買入れ限度数量は、そのほとんどが十一月中旬に検査を終了しました。

等級区分が昨年の五等級から三等級に変わっているが(今までの一等から三等までが一等に、四等が二等、五等が三等になった)、規格等については昨年までと何ら変わっていないので、このことによる上位等級割合への影響はない。

東由利農協農産課が十一月十六日現在でまとめたところによりますと、同日までの検査終了米は七万四千九百九十三俵で、これを等級別にみますと、一等米四万三千八百四十五俵、二等米二万九千二百二十四俵、三等米千二百二十四俵となっており、上位等級米(一等)の割合は、約六十割で平年(七十割)を下回っています。

今年の場合、米質は一等米に該当するのに胴割れがあつたため等級の下がつたものが目立つたほか、異常天候による立毛も中にはみられた。

検査に当つた秋田食糧事務所本庄支所の小野正義技官は、この等級等について「...今年から

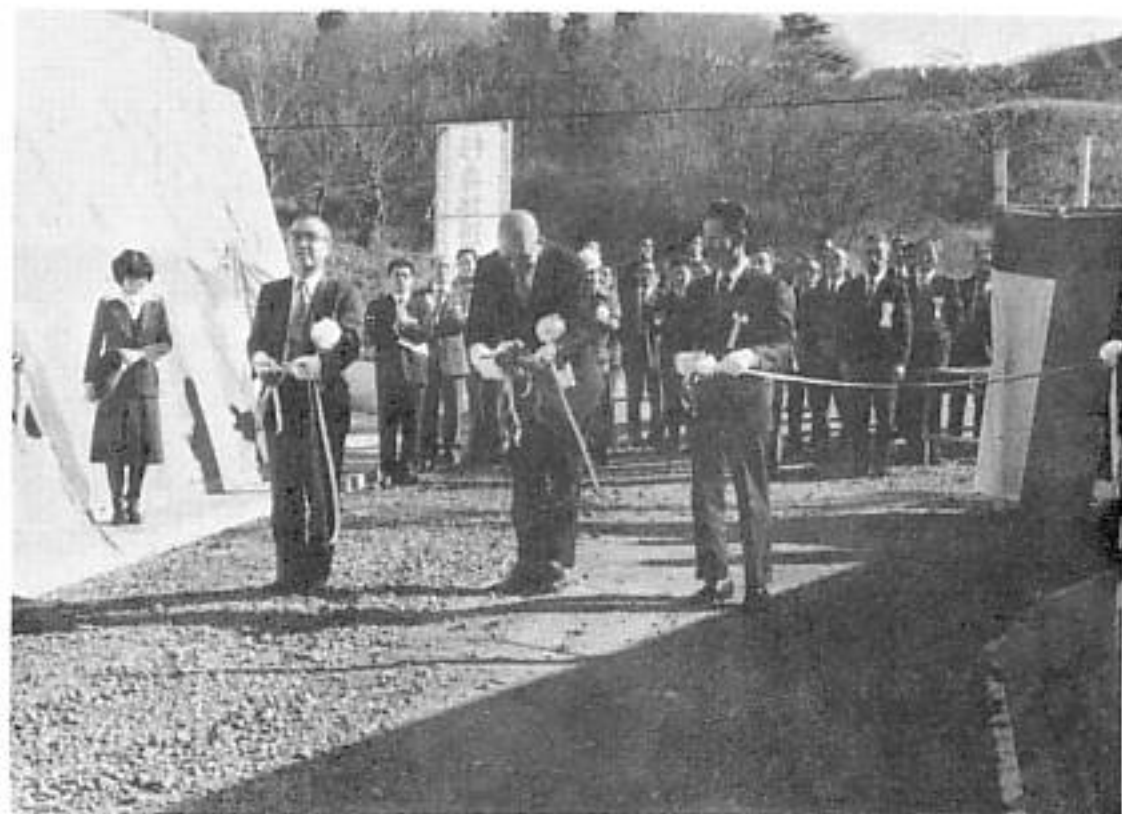
育苗形態を早く決定
また、東由利農協農産課の佐



出荷された政府米を検査する小野技官

杉森林道が完成

盛大に開通式挙行



開通式でテープにハサミをいれる、左から渡辺由利農林事務所長、小松町長、小笠原杉森林道促進協議会副会長

杉森林道開設工事が完成。十一月二十五日には、県(由利農林事務所)、町、議会、工事施行業者、愛益者、地元住民など関係者多数が出席し、開通式並びに竣工式が行われました。

沿線集落の生活道路としても重要な役割りを果たしているのが現実です。

収量的には平坦部が平年並、山間部が平年作よりやや良のようだ。

みんながそろって明るいお正月をーをスローガンに、今年も恒例の「歳末たすけあい運動」が、十二月いっぱい繰り広げられます。

二月の一環として、十二月に限って行われるもので、運動の進め方は、民生児童委員や部落長を中心実施される「地域歳末たすけあい」と、NHKがテレビ・ラジオを通して全国的に呼びかける「NHK歳末たすけ

昭和五十二年の当町における歳末たすけあいには、総額三十四万五千二百六十六円の義援金が集まり、低所得世帯や長期入院、入所者に全額配付し非常に喜ばれました。

みんなそろって明るい正月

歳末助け
合い運動

にご協力を

検査米をみると、胴割れ米が多く、乾燥機の操作ミスが見られた。と同時に、刈り取り適期の誤りも見られた。早刈り気味にあつたようだ。

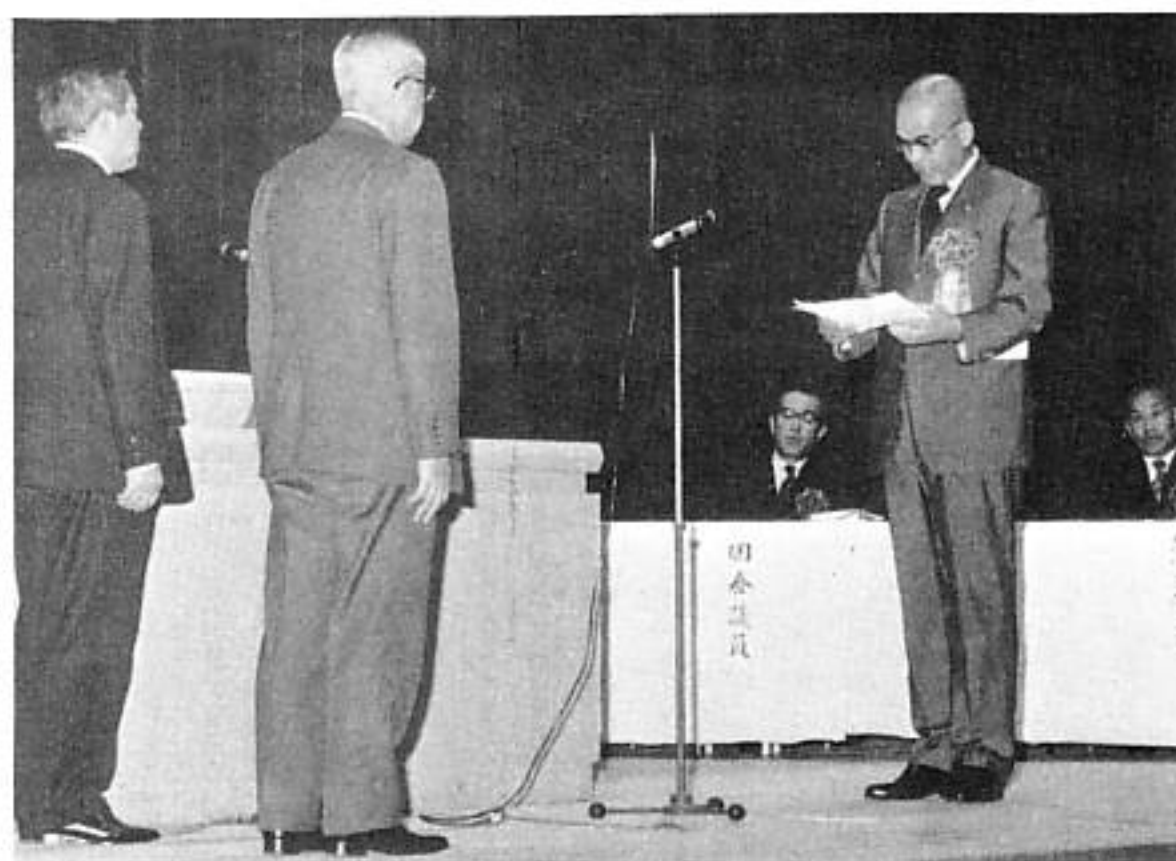
形態をどうするか早めに決め、それに合わせた作業を進め、適期田植えを行う。品種は、基幹三品目(早、中、晩)にしぼった方がよい。

昭和五十二年の当町における歳末たすけあいには、総額三十四万五千二百六十六円の義援金が集まり、低所得世帯や長期入院、入所者に全額配付し非常に喜ばれました。

国保法施行40周年記念式典

本町が優良団体知事表彰

運営委員の三氏は理事長表彰



全受賞者を代表して謝辞を述べる
小松町長

秋田県と秋田県国保団体連合会の共催による国保法施行四十周年記念式典が、このほど秋田県教育会館に関係者多数が出席して盛大に挙行されました。

昭和三十三年四月一日に公布され、同年七月から施行された国民健康保険法の意義を確かめ合い、今後の発展の契機とするために挙行されたこの式典では、

国保事業全般にすぐれた成績をおさめている六団体と永年勤続などで同事業の発展に貢献があった関係役職員六十七人の表彰も行われました。

同席で本町は、事業全般にすぐれた成績をおさめている優良四団体の一つとして鹿角市など一市二町とともに知事表彰を受

彰、また本町に運営協議会が設

置された昭和三十四年度から同委員として活躍して来られた小松三治郎・内山三郎・小松真悦

三氏も晴れの連合会理事長表彰をうけ、同法施行四十周年の感激を新たにしました。

出かせぎと国保

国保税の月割減額 社保加入当月から

国民健康保険税の月割計算とは、年度途中において被保険者資格の得喪があった場合、資格のあつた期間(月数)に応じた税額となるよう計算のしなおしを行うことです。

出かせぎで社会保険等へ加入し、年度途中から国民健康保険の被保険者資格を失った場合はその月から月割計算による減額

の対象となります。

世帯全員の資格そう失では税総額が資格期間の月数に応じて減額の対象となり、一部世帯員だけの場合は、その人に係る分(所得割分、資産割分がある場合はそれも含める)だけが対象となります。

昨年までは社会保険等の加入や離脱に伴う異動だけが月割計算の対象でしたが今年度からは出生や死亡、単なる転入や転出も対象に含められています。

扶養家族には必ず 遠隔地被保険者証

世帯主が社会保険等へ加入した場合、その扶養家族すべてをその扶養者として加入させるよう配慮することは前々号でお知らせしたとおりであります。が、この場合、国保の(被保険者証)に当たる「遠隔地被保険者証」を必ず発行してもらってください。

留守家族には、この被保険者証を必ずかかりつけの診療機関に提示させることを忘れないでください。

これを行わないと、税は月割計算で減額されても後日国保から資格そう失後の給付金を返還させられる羽目になる場合があります。昨シーズンにはこれが

数十件にのぼっています。

異動の無届けは 過料の対象に

資格異動の届出が原則として十四日以内であることは十月号でお知らせしたとおりです。

特別な理由がないまま無届けでおり一カ月以上も経ってから届け出されると事務に大きな支障が及ぶため、国保法一二七条の規定により過料処分の対象とされることがありますので注意を要します。

読書感想文を募集

本荘市立図書館では、読書の普及と向上を図るために、次の要領で読書感想文を募集しています。

- ① 応募資格 本荘市・由利郡民で、中学・高校生を除く。
- ② 課題図書 ●坪田譲治著『風の中の子供』(新潮文庫他) ●宮本輝著『蜩川』(筑摩書房刊) ●芦沢光治良著『巴里に死す』(新潮文庫他) ●夏目漱石著『行人』(岩波文庫他) ●近藤紘一著『サイゴンから来た妻と娘』(文芸春秋刊) ●アネスト・ゴードン著『死の谷を過ぎて』(音羽書房刊)の中から一編を選んで。
- ③ 原稿の長さ 四百字詰原稿用紙五枚。
- ④ 切り日 昭和53年1月27日(必着のこと)
- ⑤ 原稿の提出先 本荘市美倉町30 本荘市立図書館「読書感想文募集係」あて。

福祉の窓

●制度の目的

この制度は、多年にわたり社会の進展に寄与してきた老人を敬愛し、健全で安らかな生活保障の一環として、医療費の自己負担分を無料化しようとするものです。

●支給対象の範囲

- (1) 七十歳以上の老人で、本人の所得、又は扶養義務者の所得が一定額以下の者。
- (2) 六十五歳以上七十歳未満の老人で、ねたきり老人等に該当する者。

※ねたきり老人とは、国民年金法による障害年金、障害福祉年金を受けることの出来る程度、又は身体障害

者手帳一級・三級並びに四級の一部に該当する程度の障害を有する者とされています。

●受給者証の交付申請

老人医療費の受給者となるには、本人が町長に「老人医療費

老人医療費支給制度

七十歳以上老人の医療費が無料

受給者証交付申請書」を提出しなければなりません。

●受給者証の有効期限(更新)

老人医療費受給者証には有効期限があつて、七月一日(年度途中交付者は、文付を受けた日の属する月の初日)から翌年の

六月三十日までとなっており、すので、毎年受給者証の更新をしなければなりません。

●諸届出

受給者について、いろいろな変更があつたときは次のような変更の届出をしなければなりません。

せん。(十四日以内)

- (1) 受給者の氏名、住居地が変わったとき。
- (2) 受給者が、医療の給付を受けることの出来る保険者、若しくは共済組合に変更を生じたときなど。又、受給者を扶



町民のひろば



町の概要

人口総数	6,442人
うち男	3,168人
うち女	3,274人
世帯数	1,468戸
面積	148.51km ² (53.11.1)

東由利中が優秀賞に輝く

全県花だんコンクールで

昭和五十三年度全県花だんコンクールの中学校、高校の部で、本町の東由利中学校が、書類審査、現地審査を経て見事、優秀賞(同部門で四校)に輝き、こ

のほど賞状並びに記念の楯が贈られました。

このコンクールは、秋田県花いっぱい運動の会、秋田県新生活協議会の主催で毎年開かれて



賞状と記念のたてを手に喜びの生徒代表と先生

いるもので、今年で十七回を数えます。今回は、県内の小学校から職場まで六部、百九十三団体(中学校・高校の部には二十五団体)が参加しました。東中では、校舎南側に、縦二、横六の長方形の花だんが十一個設けられ、そこには、サルビア、マリーゴールド、鶏頭、アゲラタムなど十種類ほどの花が植えられ、秋

には、赤や黄色の花が咲き揃う見事な花園となり、生徒や教職員はもちろん、訪れる人々の目を惹きつけてくれました。

花だんの管理には、同校の田口先生の指導を受けながら、十八名の整備部員を中心に全校生徒が交替で当りました。特に、今年七月、八月の日照り続きには、生徒が交替で毎日水かけを行ない、枯死するのを防ぎ、きれいな花を咲かせたのです。

同校では、今回の受賞を心から喜ぶとともに、来年はさらにステキな花だんをつくりたいと話していました。

社福だより

故佐藤アキヨ殿のご遺族(大琴、佐藤実さん)より香典返しとして三万円が届けられました。故人のご冥福を衷心よりお祈り申し上げます。

二人の県知事表彰

秋田県統計大会で

第二十五回秋田県統計大会が十月十三日、秋田市の県教育会館で行われ、席上、永年にわたって各種統計に功労のあった県内の団体、個人が表彰されました。

この中に、本町下通の佐藤久さん、蔵の佐藤万一さんも含まれており、県知事から表彰状が贈られました。

両氏とも十年以上にわたり、国勢調査、秋田県農業基本調査

幸子さんとおかあさんに表彰状



蔵小学校六年の佐藤幸子さん(蔵・幸雄さん三女)は、十一月十日矢島小学校で行われた郡市学校保健研究会の席上、健康優良児としておかあさんの貞子さんと一緒に表彰されました。これは、本荘市由利郡学校保健会が、ふだんから健康の保持増進につとめ、勉学や各種スポーツに励み、体力も学力も備っている健康優良児童と、そのおかあさんを表彰するもので、毎年行われているものです。

県知事から感謝状

優良国民年金委員

本町舟打場の鈴木藤三郎さんは、去る十月三十日に県庁で行われた優良国民年金委員等表彰式で、秋田県知事から感謝状が贈られました。

鈴木さんは、昭和四十五年から年金委員として、年金加入の促進、保険料の徴収などを行っている功労が認められたものです。

所得税青色申告 決算説明会の開催

本荘税務署では、昭和五十三年分の決算を正しく行っていたために、青色申告者を対象として、次により所得税青色申告

慶弔

10月21日～11月20日



誕生

おめでと



結婚

おしあわせに

- | | | | | |
|----------------|-----------------|---------------|----------------|----------------|
| 小松 悠 下小路 建 長男 | 小松 齊充 高戸屋 金蔵 長男 | 佐藤 裕 新処 清一 長男 | 大庭 清人 舟木 清一 二男 | 高橋 潤 館倉新田忠男 長男 |
| 佐藤 徳一郎 大吹川 士ノ前 | 阿部 カツ | | | |

〇おくやみ申し上げます

- | | | | | | | | |
|-------------|---------------|----------------|--------------|---------------|--------------|---------------|--------------|
| 木島末五郎 島 78歳 | 鈴木マサヨ 舟打場 57歳 | 畑山 要蔵 館倉新田 93歳 | 鎌田マサエ 黒瀬 80歳 | 遠藤ナツノ 五海保 66歳 | 鈴木 重男 大琴 73歳 | 千葉 長一 中ノ沢 37歳 | 渡辺キクエ 田代 83歳 |
|-------------|---------------|----------------|--------------|---------------|--------------|---------------|--------------|

- | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------|-----------|-----------|----------|----------|-----------|-----------|----------|-----------|-----------|----------|----------|----------|---------|
| 鈴木 重一 舟打場 | 佐々木 幸子 大台 | 鈴木 誠治 大内町 | 鈴木 恵子 大琴 | 大庭 時晴 舟木 | 佐々木 郁子 大琴 | 鈴木 春夫 羽後町 | 小松 和子 上里 | 高橋 孝次 舟打場 | 藤島 厚子 青森県 | 伊東 茂夫 岩館 | 小野 裕子 祝田 | 佐藤 俊一 寺田 | 阿部 洋子 蔵 |
|-----------|-----------|-----------|----------|----------|-----------|-----------|----------|-----------|-----------|----------|----------|----------|---------|